



ブラック・スワン食糧保障

ブラックスワン食糧保障メールマガジン 2025年09月12日配信号
「世界が羨む日本の莫大な財産とは」

ちょっと朝晩は過ごしやすくなってきましたが、みなさんいかがお過ごしでしょうか？
夏休み期間に「日本の国益を問う」という本を読みました。

（松原仁 山田吉彦 高橋洋一共著）

以下はいつもの通り、偉い先生方の受け売りですが、いつもの暗い話とは違い、夢のあるお話です。

「我が国はアメリカやロシアに並ぶような広大な領土を持ち、なおかつ資源大国でもある！」
と言うと、「何を馬鹿な！大丈夫？」と皆さん思われるでしょう。

しかし実はこれ、本当なのです。

確かに我が国は陸地の面積は小さい国ですが、広大な領海を持ち、これを入れると世界6位の面積を持つ巨大国家になります。また周辺の海溝がとんでもなく深いので、体積で比較すると世界2位になります。

しかも海底には少なく見積もって500兆円、楽観的な計算だと1000兆円にも上る資源が転がっています。

中国が尖閣などにしょっちゅうちょっかいを出してくるのは、これが大きな理由の一つでもあります。

1930年には沖ノ鳥島を日本領土に編入しました。

また小笠原諸島の火山活動は近年活発で、新しい島ができる可能性もまだまだあり、領海は絶賛拡大中です。

例えば硫黄島付近の西ノ島は噴火によってどんどん面積が拡大し、10年で10倍、噴火口はどんどん高くなり、とうとう 標高160メートルに達したとのことです。

新しい島ができるとそこから更に200海里が領海になります。

韓国などはこれが非常にうらやましい（悔しい？）らしく、日本よりも頻繁に島の報道をしているそうです。

それではどのような資源が海底に転がっているかですが、

「燃える氷」といわれる、天然ガスがシャーベット状に凍っているメタンハイドレートは120~300兆円。（私も30年ほど前にこの「燃える氷」という本を読んで感動し、将来は海洋開発をやってみたいと思いました。）

世界需要の数百年分に相当する1600万トン超の超高濃度レアアース泥が100兆円

コバルトを中心としたニッケル、白金、マンガンの金属鉱床であるコバルトリッチクラストが200兆円、マグマで熱せられた海水が噴き出す噴射孔の周辺に金属が沈殿して形成された海底熱水鉱床の金銀銅などが80兆円。

その他マンガンノジュールなど20兆や、尖閣付近には中国が狙う海底油田と、わかっているだけでもこれだけあり、先に述べたように、広大な領海ですので、まだまだ色々出てくる可能性はあります。

ただ莫大な資源が海に眠っているとはいえ、これを取り出す技術は非常に高度でまだまだ難しく、仮にできたとしても、環境に配慮して取り出すということであれば、更にハードルが高くなります。

しかし、ほんの数十年前には世界一の技術大国といわれた我が国の人的、物的資源を総動員すれば、十分可能だと思います。

また開発費用に関しては専門家である高橋洋一氏が、「そんなの簡単だよ～少なくとも500兆あるんだから、それを担保に100兆ぐらい国債発行しても全然大丈夫だよー」と、さらっとおっしゃっています。

かつてケネディー大統領は「我々は10年以内に月に着陸する」という目標設定をしました。この目標設定により、ロケット工学などの宇宙開発技術のみならず、コンピューターの開発やシステム工学等の産業科学技術の革新が起こり、多くの波及効果がもたらされました。

そしてこれが現在のIT大国アメリカに繋がっていきます。

また「人類初の月面着陸」という夢へと国民を団結させ、鼓舞したことにより夢が実現し、アメリカは国家としての威信を獲得しました。

しかも冷戦に勝利し、これを終結させたことも大きな財産となりました。

一定の時間を区切りプレッシャーをかけることも、人間の潜在能力を全開にさせるためには非常に良い方法であったことがわかります。

我が国が「海洋大国」を目指すという明確な国家目標を持ち、産官学が力を合わせてこのビジョンに投資し、実行に移すことができれば、高精度の探査技術、深海ロボティクス、素材工学、AIによるリアルタイム解析技術、エネルギー輸送インフラ、さらには海洋環境モニタリング技術と関連技術が連鎖的に生まれ「資源開発技術大国」へと生まれ変わる可能性があります。

そしてなにより国民が一致団結して大きなことを成し遂げ、国家としての威信を獲得できるというのが、1000兆円の資源よりさらに大きな財産となるでしょう。

<https://www.youtube.com/watch?v=oW9ZGkQDZis>

(沖ノ鳥島の維持管理は結構無理やり感があり、面白いので是非見てください。
中国は「これは島ではなく岩やろー」と抗議してきています。)

ブラックスワン食糧保障
草間 弘人

正しく表示されない場合は[こちら](#)

今後も引き続きメールの受信を希望される方は[こちらをクリック](#)してください。今後メールの受信をご希望されない方は、こちらから[配信停止手続きが行えます。](#)

大阪市港区 弁天1-2-1

[配信停止](#)

